

# マイウェイ

No.75  
2010

## 鎌倉五山物語

協力・文 小峰邦夫  
写真 桜井ただひさ

財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成22年6月発行 ● 発行人 小川 是 ● 編集人 富安良和 ● 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-222-1171 直通 關西北社 大日本印刷



臨濟宗を代表する五つの名刹をめぐる小さな旅。

## 五山制度の確立

### 最高の寺格を示す五つの禅刹

五山の制とは、中国の南宋時代（十二世紀）に定められた制度で、日本では中国の五山に倣って鎌倉時代末期に取り入れられました。

宝治元年（一二四七）六月、北条時頼が三浦氏を滅ぼすと、北条氏に対抗する



建長寺西外門に立つ「臨濟宗五山第一」と記された石碑。

政敵は無くならず、従来有力武将の合議制で運営されてきた政治は北条氏嫡流の専制政治へと移っていきます。かつて三浦一族の和田氏の所領であった山内荘（現在の北鎌倉一帯・横浜市南部）は幕府直轄領となり、その後は北条執権家の私領となります。北条氏は自領となった土地の鎌倉中心部に近い場所に北条氏ゆか

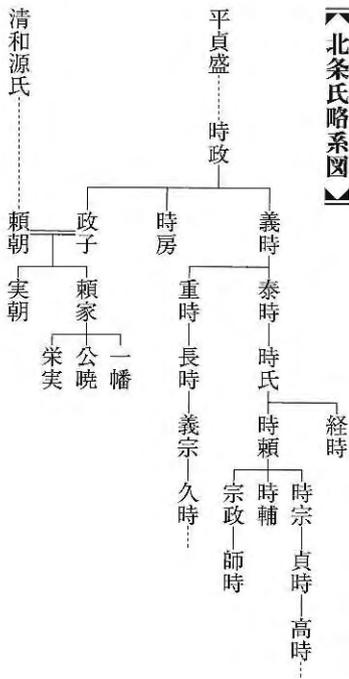
りの禅宗寺院、即ち建長・円覚・浄智といった臨濟宗の寺院を建て、中国から五山の制が伝わりと我が国最初の五山に列しました。こうした寺は官寺として幕府に保護され、最上位の格付けがされましたが、寺領、順位、住持（住職）の任免等は幕府に管理されました。

鎌倉五山第二位の円覚寺・勅使門。



表紙／建長寺三門。  
裏表紙／円覚寺境内。

### 「北条氏略系図」



度は武家による鎌倉五山に代わって、公家による京都中心の五山制度ができました。この時は第一位から南禅寺・東福寺・建仁寺・建長寺・円覚寺という順序で、京都の寺が上位三位までを占めています。その後も度々変更があり、寺の入れ替え、順位の変更などが行われます。そして各

よう。五山称号の変更権や住持の任免権を持つ室町幕府は苦しい財政事情を助けるために、二年ごとの官寺住職の変更に際して名義料（公認料）を徴収するということもあつたようです。

五山の制は宗教の序列化・官僚化を進めました。一方では人事の交流によって文化の広がりなども進みました。

寺の僧侶の名簿を作り、役僧の任期を二年と定めるなど制度の内容が固まっています。その過程では寺の格を上げたという活動や、転寺によつて自身の昇格を図りたいという運動も起こったことでし

今日の五山とは、室町幕府最盛期の至徳三年（一三八六）に足利義満によつて決められたもので、南禅寺を五山の上（別格）とし、一位天龍・建長、二位相国・円覚、三位建仁・壽福、四位東福・浄智、五位万寿・浄妙というように京都と鎌倉の寺院が同数になり、この形で現在に伝えられています。

# 鎌倉五山を歩く

五山歩きは三つの名刹のある北鎌倉を起点に始めましょう。



## 円覚寺

禅宗文化の粋を今に伝える  
伽藍・塔頭、庭園を見学。



境内入口。石段の上  
に総門が見える。

## 白鷲池を望んで山内へ

J R横須賀線の北鎌倉駅を降りると、そこはもう広大な敷地をもつ円覚寺の寺域です。臨濟宗円覚寺派大本山・瑞鹿山円覚興聖禪寺。「蒙古襲来」という空前の国難が収まった弘安五年（一二八二）、

鎌倉幕府八代執権北条時宗は、鎮護国家（仏教により国を守ること）への思いと、戦死した敵味方両者の菩提を弔うために円覚寺建立を発願し、渡来僧・無学祖元を開山として創建しました。「円覚」の寺号は、寺地選定の際、鶴岡八幡宮の神が白鷲となつて、この地に降

り立ち、土地を掘つたところ石櫃が出土し、中から「円覚経」という経典が出てきたことに由来します。円覚寺の門前JR横須賀線と鎌倉街道の間に小さな池があります。池の名は白鷲にちなんで白

鷲池、かつては現在の倍以上の大きな池で、中央にかかる橋を隔てて、左右対称の宋風様式を示す風雅な造りだったといえます。まず、この池を望んでから、円覚寺を参詣することにししましょう。

**壮麗な三門と国宝・舍利殿**  
境内入口に立つと急峻な石段がありま  
す。石段の上に総門があり、総門をくぐ  
ると、「円覚興聖禪寺」の額の掛かる二



三門（上2点）。境内の伽藍は、数度の大火のため洪鐘堂を除いてほとんどが焼失したが、江戸末期に中興の誠拙和尚により再興された。三門は天明5年（1785）の再建。伏見上皇勅筆の「円覚興聖禪寺」と書かれた額が掛けられている。境内は国史跡。

### 円覚寺

- 開基◆北条時宗
- 開山◆無学祖元（仏光国師）
- 開創◆弘安5年（1282）
- 鎌倉市山ノ内409 ☎0467-22-0478
- 拝観料：300円

### 鎌倉散策マップ





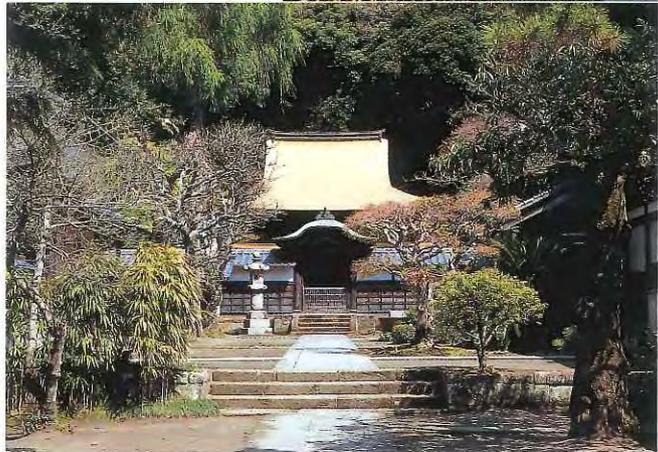
境内東側の山腹に洪鐘堂があり、見晴らし台から源氏山方面を眺望。正面に東慶寺（鎌倉尼五山第二位）が見える。



昭和39年に再建された禪宗様式の仏殿。本尊の宝冠釈迦如来が安置されている。



右/妙香池（国名勝）。下/国宝・舍利殿（非公開）の入口付近。鎌倉尼五山第一位の太平寺の仏殿を室町時代に移築したものという。



## コラム

### 漱石の参禅体験

夏目漱石は二十八歳の時、明治二十七年十二月二十三日から翌年一月七日にかけての十五日間、円覚寺の塔頭・帰源院に泊まり、参禅に励みましたが、得るものなく下山しました。この時の経験は小説「門」に詳しく描かれ、「夢十夜」にも出てきます。その後、明治三十年七月、

帰源院を再訪。そこでの一句「仏性は白き桔梗にこそあらめ」が、帰源院境内の自然石に刻まれています。仏性（人が生まれながらにもっている仏となるべき性質）は白い桔梗のようなもの……と、悟ることのできない漱石自身の心境を表しているとのこと。

佛日庵は、現在、境内に十八ヶ寺ある塔頭（支院）の一つですが、開基・北条時宗の廟所です。ここで一服、抹茶をいただき、お参りしてから、また散策するとよいでしょう。

境内にはたくさんのお見所がありますが、中でも見逃せないのが鎌倉三名鐘の一つ

である国宝の「洪鐘」でしょう。九代執権貞時が鑄造させたという鎌倉時代を代表する梵鐘です。

\*方丈は、元来住職の住む建物のことですが、現在では、ここで多くの宗教行事が行われる。  
\*建長寺の梵鐘（国宝）、常楽寺の梵鐘（国重文）とともに鎌倉三名鐘という。また、長谷寺の梵鐘（国重文）をふくめて、鎌倉四古鐘ともいわれる。

層銅葺きの堂々たる三門（山門）が聳えています。円覚寺の象徴ともいえる三門ですが、五山第一位の建長寺の三門より二割ほど小さく、三門楼上には、観世音菩薩・羅漢が安置されています。

三門をくぐれば仏域です。

正面に仏殿があり、仏殿の左を進むと、右側に方丈、さらにそのままならかな坂道を歩くと妙香池があり、池に沿って左に折れると、門の向こうに国宝・舍利殿があります。内陣には、源実朝が宋から請求した仏舍利（釈迦の遺骨）が納められていますが、ふだんは非公開のため、門の手前から唐様式の美しい屋根を眺めるのみとなります。すぐ先には、多くの参詣者が訪れる佛日庵があります。

## 浄智寺

谷の緑の中にひっそりと佇む  
禅刹の枯れた風情を味わう。

円覚寺を出て鎌倉街道を左（鎌倉駅方

面）に向かうと右側に縁切り寺で有名な東慶寺が、さらに進むと明月院前のバス停があり、ここを右に折れると五山第四位、臨済宗円覚寺派の禅刹・金宝山浄智寺があります。開基は北条時宗の弟の宗政と遺児の師時です。宗政が二十九歳の若さで亡くなると、まもなく夫人は一族の助けを借りて寺を起し、夫の宗政と遺児師時の両者を開基として創建したと伝えられています。開山には中国の名僧・兀庵普寧と大休正念、日本僧の南州宏海

の三人が名を連ねています。

かつては三門、仏殿、法堂などの伽藍のほか、十ヶ寺を超える塔頭が建ち並び、僧侶数百名を擁する大寺院でしたが、延文元年（一三五六）の火災で初期の伽藍を失い、その後再建された建物も関東大震災で倒壊しました。現在は、鐘楼門と仏殿（曇華殿）、方丈などが谷の緑の中に静かに建っています。その閑寂な佇まいに「侘び」の風情を感じる人も少なくはないでしょう。

参道入口に古い石橋のかかる池があり、

傍らに鎌倉十井の一つ「甘露の井」があります。ここから総門、鐘楼門へと磨り減った石段を上ってゆきます。総門には

「寶所在近」（宝所は近きに在り）の額が掛かり、さらに上ると、中国風の珍しい鐘楼門があります。門をくぐると境内が広がり、右手に仏殿が建ち、ここには、室町時代の作といわれるご本尊の三如来（三世仏）が安置されています。

また、仏殿裏手の洞窟には布袋尊が祀られています。訪れる者を安らかな気持ちにさせてくれます。

\*さまざまな伝説をもつ10ヶ所の井戸を「鎌倉十井」と呼んでいる。「甘露の井」は、その水がきれいで甘かったことから甘露水と呼ばれたとのこと。



上／鎌倉石の石段の上に中国風の鐘楼門が建っている。中・右／参道入口の池のほとりに「甘露の井」。右手奥に総門が見える。中・左と下／仏殿（曇華殿）と本尊の三世仏（県重文）。左から阿彌陀・釈迦・弥勒で、過去・現在・未来を表す如来像。右／鎌倉七福神の二柱とされる布袋尊像。



## 浄智寺

開基◆北条宗政・師時

開山◆兀庵普寧・大休正念・南州宏海

開創◆弘安4年(1281)

鎌倉市山ノ内1402 / ☎0467-22-3943

拝観料:200円

## 建長寺

日本初の臨済禅の一大道場として君臨。見るものを圧倒する堂々たる伽藍。

## 異国的雰囲気の内と伽藍

浄智寺から鎌倉街道を十分ほど歩くと、建長寺バス停前に「臨済宗五山第一」と記された大きな石碑があり、すぐ後ろに「天下禅林」の額を掲げた西外門が建っています。かつては東外門もありましたが、現在はありません。

門を入って駐車場を横切ると、左手に山号「巨福山」を掲額した総門が見えます。京都の天台宗般若三昧院という歴代天皇の御位牌を祀る寺院の表門を昭和十五年に移築したものです。この門から三門、仏殿、法堂が、一直線上に並んでいます。境内を平らに造成し、左右対称に伽藍配置した造形は、中国の禅宗様式

を範としたもので、同じ臨済宗の禅刹でも山や谷の起伏を巧みに取り入れた円覚寺や浄智寺のもつ表情とは違い、異国的な雰囲気・力強さをたたえています。

さらに進むと、威風堂々とした三門が見る者を圧倒するように建っています。これは江戸期の安永四年（一七七五）に再建されたのですが、その大きさと、風格といい、日本最初の臨済禅の一大道場として君臨した禅刹の意気込みを感じずにはおられません。

建長寺、正しくは「巨福山建長興国禅寺」といい、鎌倉幕府の執権北条時頼が宋の高僧・蘭溪道隆を迎えて開山とし、建長五年（一二五三）に創建した臨済宗建長寺派の大本山です。三門の右手、東

側の鐘楼には建長七年（一二五五）铸造の梵鐘（国宝）があり、鐘には蘭溪道隆による「建長禅寺」の銘が浮彫りにされています。

## 冥府の救済者・地藏菩薩を安置

さて、三門をくぐると参道の両側に蘭溪道隆ゆかりの柏楨が並んでいます。禅師が宋から持参したと伝わる柏楨の種が、この地に植えられ、およそ七百年。厳しい年月を生き抜いてきた禅刹を象徴するかのような老樹の姿は、すぐ前に建つ仏殿に独特な趣を与えています。

建長寺を開いたときに最初に建てられたのが仏殿ですが、創建当時の建物が火災で焼失したため、芝増上寺にあった



右／三門（国重文）。左上／「巨福山」の額が掛かる総門。建長寺第10代住職一山一寧の筆によるもので、「巨」の字を書く際、筆勢による一点が加わり「巨」になったものといひ、百貫の値があるとのこと。左下／三門脇にある梵鐘（国宝）。名工・物部重光の铸造で、創建当時の姿を今に伝える貴重な遺産。境内は国史跡。



上／蘭溪道隆お手植えと伝えられる拍楨の古木。仏殿の前の参道両側に7本植えられている(新日本名木百選)。下／仏殿に安置されている本尊の地藏菩薩像。



上／境内奥の山道へと続く道。山腹には建長寺の鎮守・半僧坊大権現が祀られている。下／蘭溪道隆の作庭といわれる禅宗様式の庭園で、江戸時代に改修された(国名勝)。

### 建長寺

開基◆北条時頼  
開山◆蘭溪道隆(大覚禪師)  
開創◆建長5年(1253)  
鎌倉市山ノ内8  
☎0467-22-0981  
拝観料:300円

十二年(一一八四)築造の関東最大といわれる木造建築で、法堂後方の唐門(別名・勅使門・国重文、その向こうには方丈、方丈の背後には禅宗様式の庭園があります。境内は方丈の後方一帯の山を含み、年間を通じて多くの参拝者の散策路となっています。

徳川二代将軍秀忠夫人の霊屋を正保四年(一六四七)に移築したもので、本尊の地藏菩薩が安置されています。建長寺の境内があるこの土地は、かつて刑場があり、地獄谷と呼ばれていました。そのため、処刑された罪人を吊い、冥府の救済者とされる地藏菩薩を本尊とした心平寺という寺院がありました。そうした仏縁を重んじて、建長寺は地藏菩薩を本尊にしたとのことです。現在の仏殿には、地藏菩薩像のほかに、道教の土地神を守護神とした中国禪宗の習僧を取り入れた伽藍神(本年三月に国重文指定)や千体地藏菩薩などが祀られています。

境内の見所はいくつもあります。仏殿の後ろにある法堂(国重文)は、文化

### コラム

#### 禅宗様式の伽藍

禅宗様式は、鎌倉時代に禅宗の伝来に伴い導入された建築様式です。伽藍は、三門、仏殿、法堂を中心線上に並び、その他を左右対称に配置しています。なお、伽藍とは一般に、寺院の主要建築群をさしますが、禅宗では仏殿・法堂(法を説く堂)・僧堂・庫裡・三門・東司(便所)・

浴室を七堂伽藍といえます。建築の構造は、木割が細く、屋根の傾斜は急で、軒は強く反り、軒裏は組物と呼ばれる細かい装飾で埋め尽くされています。建長寺、円覚寺の三門を見ると、軒裏には何段もの組物が詰め込まれているのが分かります。



総門。門の脇に「壽福金剛禪寺」と記された石碑が。全盛期は七堂伽藍と十数の塔頭が建ち並んでいたという。境内は国史跡。

鎌倉五山第三位

## 壽福寺

木漏れ日が美しい参道を歩き、政子・実朝ゆかりの墓所へ：

臨済宗建長寺派の禅刹・壽福寺（正しくは、亀谷山壽福金剛禪寺）は、源氏山を背にした扇ヶ谷の山ふところにあります。建長寺から巨福路坂を通って鶴岡八幡宮の境内に沿って小町通りの入口へ。ここを右に折れて十分ほどです。

人影の少ない小路を道なりに歩いていくと閑静な住宅街の一角に朱塗りの総門が現れます。

この地はもともと源頼朝の父・義朝の館があったところです。頼朝の死後、妻政子の祈願で、正治元年（一一〇〇）、

息子の頼家を開基とし、宋から帰朝した栄西を開山として創建しました。この地を愛した頼朝の遺志であったとも伝えられています。今日遺されている建物のほとんどが徳川氏の保護を受けて再建されたものですが、それでも禅刹にふさわしい凛とした気品と風格が漂っています。

とくに御影石で組まれた参道の美しさは格別で、四季それぞれに味わいがあります。総門をくぐり、木漏れ日が影を落とす敷石を踏みしめながら歩くと、簡素な山門があり、山門から仏殿（非公開）



参道の先に山門があり、山門越しに仏殿が見える。ふだんは非公開のため、山門手前で参拝をしてから裏手の墓地へ。いくつものやぐら（洞窟墓）があり、中に、北条政子・源実朝母子を供養する五輪塔が建っている。写真上は、政子、下は、実朝の五輪塔。

が見え、仏殿前には、しっとりと落ち着いた風情の庭園が広がっています。

山門脇を路地伝いに緩やかな坂道を上ってゆくと墓所があり、山腹のやぐらに、北条政子・源実朝母子の墓と伝えられる五輪塔が建っています。

なお、栄西は茶の種子を中国から持ち帰って栽培し、日本に広めたことで有名です。壽福寺には栄西の著した「喫茶養生記」（国軍文）があります。

### 壽福寺

開基◆源頼家（北条政子）

開山◆栄西

開創◆正治元年（1200）

鎌倉市扇ヶ谷1-17-7

☎0467-22-6607

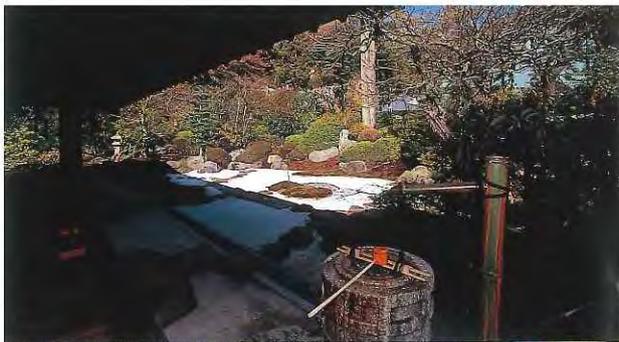
室内非公開



浄妙寺

開基◆足利義兼  
開山◆退耕行勇  
開創◆文治4年(1188)  
鎌倉市浄明寺3-8-31 / ☎0467-22-2818  
拝観料:100円

銅葺きの清々しい本堂(仏殿)。仏殿には本尊の釈迦三尊坐像、本堂裏の開山堂には、開山退耕行勇律師像(国重文)が安置されている。境内は国史跡。



上/茶室・喜泉庵から眺めた枯山水。右下/庭園の向こうに喜泉庵が。左下/足利貞氏(尊氏の父)のものといえられる宝篋印塔。

鎌倉五山第五位

浄妙寺

壽福寺を出て、五山めぐりの最後の禅刹・浄妙寺に向かいます。鶴岡八幡宮まで戻り、ここから金沢街道を歩いて、およそ三十分の道のりです。

臨済宗建長寺派の禅刹で、正しくは稲荷山浄妙禅寺。当寺発行の略記によれば、開山は退耕行勇、開基は足利義兼です。義兼は頼朝挙兵以来の武将で、鎌倉幕府の宿老として活躍し、北条時政の娘時子(政子の妹)を妻としています。

この義兼が文治四年(一一八八)に創建した時には密教系の寺院(極楽寺)で

枯山水の庭園を眺めながら水琴窟の音を楽しみ、抹茶をいただく。

したが、その後、臨済宗の禅刹となり、寺名を浄妙寺に改めました。

金沢街道の浄明寺バス停手前の小道を左に折れると、小さな総門があります。総門を入ると、明るい境内の正面に、山の緑を背にして銅葺き方丈形式の仏殿が建ち、仏殿には本尊の釈迦如来が安置されています。仏殿左側の一角には喜泉庵という茶室があり、茶室の前に枯山水の庭園がつくられています。

この茶室は、天正年間(一五〇〇年代)、僧が集まり茶を喫したといわれる「喜泉

庵」を平成三年に復興し、参拝者に開席されたものです。枯山水を眺めながら、水琴窟の音に耳を傾け、茶を楽しむことができます。さて、一服してから、仏殿裏手の墓地を訪ねましょう。

ここには浄妙寺殿と呼ばれた中興開基・足利貞氏(尊氏の父)の墓と伝

寺院は本来、山の中に建てられたため山門といわれ、寺名の上に山号が付けられました。平地にあっても山門と呼ばれるのは、その名残です。

また、山門は三門とも呼ばれています。現世の苦惱から脱して仏の世に近づくことを「解脱」といいますが、それには空門・無相門・無作

えられる宝篋印塔があり、「明德三年」(三三九二)の銘が刻まれています。

ちなみに背後にある稲荷山には、鹿島神宮へ参詣する途中の藤原鎌足が立ち寄り、鎌を埋めたという伝承があります。一説では、ここから「鎌倉」という地名が生まれたといわれています。

門の三つの門を経た仏国土に至ると、仏教では教えています。三解脱門とも呼ばれ、禅寺の場合はふつう仏殿の前に三門が置かれます。

建築的には、初期の寺院建築では、南に面して、正門、東に二つの脇門が置かれることから三門と呼ばれていました。

コラム

山門と三門

## 海外派遣事業のご紹介

国際的視野の広い中小企業青年従業者の育成を目的として、昭和45年に「神奈川県中小企業技術者等海外派遣事業」を、また、平成1年に「神奈川県商業従業者海外派遣事業」を開始し、継続実施しております。現在まで、中小企業技術者等派遣事業に約810名、商業従業者派遣事業に約150名の方々が派遣団員として参加され、欧州の先進国で貴重な視察研修を体験されています。応募要領等詳しくは、ホームページをご覧ください。

## ユニフォームを通して地球環境に貢献したいと考えています。

横浜市中区 (株)ダイイチ 花本高志さん

### イタリアのユニフォーム事情

一昨年十一月に「第十五回神奈川県商業従業者海外派遣団」に参加し、八日間の日程でフランス(ニース)とイタリア(トリノ、ミラノ)の三都市十二箇所の商業施設を視察してきました。タイトなスケジュールの中で、団



花本さんは、(株)ダイイチの専務取締役。

員十名がそれぞれ目的意識をもって精力的に取材しているのを見て、ずいぶんと励まされたのを思い出します。

私の担当視察先は、トリノのユニフォーム店で、家族四人で経営するオーダーメイドの店でした。なんと顧客の六〇パーセントが富豪ファミリートのこと。家事を行うメイドさんや、庭仕

事をするスタッフのユニフォームなんかを製作しているんです。さすが日本とは違います。トリノは貴族と富豪の住む伝統的な都市です。

ですからユニフォームも、ここではシックなデザインの白いユニフォームが主流でした。ただちょっと意外だったのが、眼鏡屋さんを二箇所訪問しましたが、どちらの店の店員さんも白い診察着を着用していたことです。たしかに診察着を着ることで信頼感が増しますから、眼の検査をするのには効果的です。これもユニフォームの効用の一つですね。

その点、トリノと比べるとミラノはファッションの街です。街中で目にす

るユニフォームがなぜか格好よく見えました。皆さん、頭が小さくて、スタイルがいいし、それに着こなしているからか、ユニフォームもおしゃれな街に溶け込んでいる。なんだか街全体がイタリアをPRしているような印象を受けました。

といっても、ユニフォームのデザインが特別にいいとか、機能的に優れているとか、そういうことは感じませんでした。訪問した三都市に関してですが、日本のほうがデザインも機能もはるかに進んでいると感じざるを得ませんでしたね。そういう自信をもつことができたことも、今回の視察の成果だと思っています。



団員10名と団長(左端)と記念撮影。右端が花本さん。帰国してからも互いに励ましあえる仲間として付き合い合っています」とのこと。

上・右/1階ショーウィンドウ。上・左/ショールームと担当社員の皆さん。各種のワーク・ユニフォームを揃えている。下・右/「ふだんから服装には気を配っています」という花本さん。胸元のポケットチーフは自社のオリジナル商品（写真右下）。スーツのポケットにそのまま差し込めるのが便利。下・左/本社ビル外観。



【野毛山周辺】上・右/大岡川と川沿いの散歩路。上・左/横浜にぎわい座。下・右/野毛山公園の佐久間象山顕彰碑。下・左/下町の祭囃気が漂う野毛小路。



## ユニフォームが地球を救う

ユニフォームの効用の大きなポイントの一つは、PR効果です。企業、団体、各種グループの広報宣伝活動ですが、大切なことは、ユニフォームを着ることによって信頼度・安心感が増し、一体感が生まれ、それが活力のアップにつながるということです。

私どもの会社では「ユニフォームが地球を救う」を合言葉にしています。最近ではエコ活動に力を入れる企業が増えています。CO<sub>2</sub>の排出権付きユニフォームを着る企業など、それぞれの企業が環境への取り組みを積極的にアピールするようになりました。

私どもの会社でも早くからユニフォームにエコ素材を取り入れておりまし、リユース（再使用）、リサイクル（再利用）といったコンセプトを通して、地球環境に貢献したいと考えてきました。さらに、ユニフォームを着る人たちが、それを見る人たちが輝いてくれることで、地域に活力を取り戻せるのではないかと。たとえば、祭りのときに皆同じ衣装を着ることによって祭を盛り上げています。神輿の担ぎ手もそれで一体感が生まれて、ふだんは出せない力が出るという話を聞きました。

ですから世界の人々にユニフォームの効用をきちんと伝えることができれば、自然環境から、そして人々の力か

ら、ユニフォームを通じて地球を救うことができるかと信じています。（談）



花本高志（はなもと・たかし）●昭和47年、広島県生まれ。大学卒業後NITに勤めた後平成16年に（株）ユニダイチに入社。昨年9月専務取締役就任。

— インフォメーション —

はまぎん財団ロビー＆  
ラウンジコンサートの  
開催ご案内

横浜銀行本店ビルを会場として、クラシック音楽を中心としたコンサート(無料)を横浜銀行の協賛と大倉山水曜コンサートの協力により、七月より十二月まで各月一回、原則第二月曜日に開催いたします。どうぞ、お気軽にお出かけください。十月以降の開催予定につきましては、決定次第、ホームページ、チラシ等でご案内いたします。

はまぎん財団ロビーコンサート (ランチタイムコンサート)

- 会場 浜銀本店ビル2階本店営業部ロビー
- 時間 12時15分～12時45分(30分)

開催日	内容	出演者	曲目
7/12	優雅なハープ (ハープ独奏)	徳永泰子	パッヘルベルのカノン、 泉、ひき潮 他
8/9	ヴァイオリンと チェロの調べ	李文佳(ヴァイオリン)、 伊藤顕輔(チェロ)	千の風になって、 パッハ無伴奏 チェロ組曲より、 チャルダッシュ 他

はまぎん財団ラウンジコンサート (アフタヌーンコンサート)

- 会場 浜銀本店ビル1階ラウンジ「ルポール」
- 時間 15時00分～16時00分(1時間)

開催日	内容	出演者	曲目
9/13	サクソフォン 四重奏	物井光太郎(ソプラノ)、 田辺陽子(アルト)、 甲田愉香(テナー)、 石岡公恵(バリトン)	G線上のアリア、 くるみ割り人形組曲、 カルメン幻想曲

ラウンジコンサートは、予約制とさせていただきます。  
お申し込み方法は次のとおりです。

- 募集人員 60名
  - 申込方法 往復はがき1枚に、郵便番号・住所・氏名・電話番号・1名または2名参加を明記のうえ、〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 「はまぎん産業文化振興財団コンサート係」まで、お申し込みください。
  - 募集期限 平成22年8月20日(金)(当日消印有効) 申込多数の場合には、抽選といたします。
- ※はがきに記載された個人情報、催事のお申し込みのみに使用し厳正にお取り扱いいたします。

- お問い合わせ 財団法人はまぎん産業文化振興財団事務局  
(横浜銀行本店ビル13階 電話 045-225-2171、平日9時～17時)
- 交通アクセス JR線・横浜市営地下鉄線 桜木町駅下車、  
動く歩道利用徒歩5分、みなとみらい線みなとみらい駅下車7分

マイウェイ特別記念号

「よこはま産業文化物語」  
「原三溪に公共貢献を学ぶ」(仮題)の  
発行について

当財団では、昨年、横浜開港百五十年記念事業の一つとして、「原三溪翁伝」への出版助成を実施いたしました。「原三溪翁伝」には、三溪翁の実業家、社会事業家としての偉大な足跡が詳細に記されており、その中で、最も重きが置かれている公共貢献への功績を中心にご紹介する特別記念号(七十七号)「よこはま産業文化物語」を来年一月下旬(予定)に発行いたします。



編集後記

「武家の古都・鎌倉」には、年間二千人もの方々が訪れ、四季折々、大変な賑わいを見せています。

源頼朝が鎌倉幕府を開いたのは一九二二年、初の武士による政治を始めた鎌倉の地には、その繁栄の歴史と華やかな文化が伝えられております。

今回の「マイウェイ」は、その輝かしい歴史と文化の中から、禅宗寺院の格付として、北条氏が取り入れ、室町期の一三六六年に足利義満によって定められた「鎌倉五山」をテーマとして、禅利五ヶ寺を巡る「鎌倉五山物語」を発行いたしました。

取材を通じまして、境内や庭園の落ち着いた佇まいに触れるとともに、山

門、仏殿、法堂、方丈など荘厳な伽藍の建築物と仏像などを拝観し、創建時から連綿と続く五山の歴史の重みを切に感じた次第です。

この小冊子が、皆さま方の鎌倉の歴史・文化散策に多少なりともお役に立つことができれば、誠に幸いです。

最後になりましたが、鎌倉在住の郷土史家・小峰邦夫氏をはじめ、取材にご協力をいただいた皆さま方に、厚く御礼を申し上げます。

財団法人はまぎん産業文化振興財団  
事務局 参与 清水照雄

◎次号予告(2010年9月下旬)

「かながわのネーチャーライフ物語」(仮題)